Palliative

WHO方式3段階除痛ラダー

第1段階

軽度の痛み

第2段階

強さの痛み

第3段階

・軽度から中等度の・中等度から高度の強さの痛み

強オピオイド:

モルヒネ, フェンタニル, オ 弱オピオイド: キシコドン, ブプレノルフィ ンなど リン酸コデイン、トラマドール

非オピオイド: NSAIDs. アセトアミノフェン

鎮痛補助薬*

: 神経障害性疼痛緩和薬 (プレガバリン)、抗うつ薬 (アミトリプチリン、イミプ ラミン)、抗けいれん薬 (バルプロ酸ナトリウム、カルバマゼピン)、局所麻酔薬 (塩 酸リドカイン)、ステロイド (プレドニゾロン、デキサメタゾン) など

*鎮痛補助薬は痛みの性質によって、必要に応じて用いる.

Opioid 2

1. 便秘:

ほぼ必発で、耐性が形成されにくい、蠕動運動の低下と肛 門括約筋の緊張による。

→ 緩下剤(酸化マグネシウムなど). 刺激性下剤(セン ノシド)を継続的に投与する.

2. 悪心・嘔吐:

オピオイド投与開始時や増量時に生じやすい、頻度は半数 程度. 嘔吐中枢への刺激による.

→ 制吐剤の予防的投与を行う。通常は数日以内に耐性が できて症状は消失する。

3. 眠気:

オピオイド投与開始時や増量時に生じやすい。通常は数日 以内に消失する.

→ 痛みがなく強度の眠気が続く場合は、オピオイドの減 量を検討する.

*他に呼吸抑制、排尿困難、皮膚瘙痒感、せん妄などがあ るが、WHO方式に従った適切な使用法ではこれらの副作 用はまれである.

骨転移: RT ⇒ 除痛

Quiz

6 Qs/6